様式2

都市再生整備計画　事後評価シート（原案）
塩川駅周辺地区

令和8年〇月

福島県喜多方市

様式２－１　評価結果のまとめ

都道府県名	福島県	市町村名	喜多方市	地区名	塩川駅周辺地区		面積	115.0 ha
交付期間	令和3年度～令和7年度	事後評価実施時期	令和8年度	交付対象事業費	1,068 百万円	国費率	50.00%	

1）事業の実施状況

		事業名
当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	【道路】 塩川駅東西自由通路　【地域生活基盤施設】 東口駅前広場、西口駅前広場 【高質空間形成施設】 自由通路用エレベーター、西口バリアフリー対応公衆トイレ、塩川ふれあい会館トイレのバリアフリー化改築、街路灯・音声案内板設置
	提案事業	【地域創造支援事業】 防犯灯設置　【事業活用調査】 事後評価　【まちづくり活動推進事業】 まちづくりワークショップ

		事業名	削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響
当初計画から削除した事業	基幹事業	【地域生活基盤施設】 東口駅前広場、西口駅前広場 【高質空間形成施設】 自由通路用エレベーター 【高質空間形成施設】 西口バリアフリー対応公衆トイレ 【高質空間形成施設】 街路灯・音声案内板設置	関連事業へ変更。 関連事業へ変更。 事業内容の見直しに伴い、計画から削除。 事業内容の見直しに伴い、計画から削除。	影響なし
	提案事業	【地域創造支援事業】 防犯灯設置 【事業活用調査】 事後評価	事業内容の見直しに伴い、計画から削除。 関連事業へ変更。	影響なし
新たに追加した事業	基幹事業			
	提案事業	【事業活用調査】 立地適正化計画の改定	防災指針策定に対応するため、事業を追加。	影響なし

交付期間の変更			交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響
	当　初	令和3年度 ～ 令和7年度	
	変　更		

2）都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況

指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
指標1	東西自由通路の歩行者数（平日12h）	人/12h	0	R3	260	R7	－	255	△	あり ●	駅の利用者に加え、児童等の通学路として利用されており、重要な生活道路になっている。	－
指標2	塩川駅までのアクセス状況に関する満足度	%	26	H25	37	R7	－	67	○	あり	自由通路の完成により線路を挟んだ東西間の動線が確保され、安全性・利便性が向上した。	－
指標3	未利用宅地面積	㎡	102,905	H29	90,200	R7	－	27,774	○	あり	東西自由通路および西口駅前広場の整備を見据え、駅周辺地区の宅地開発が進んだ。	－
指標4										あり		
指標5										あり		

3）その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況

指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
その他の数値指標1												
その他の数値指標2												
その他の数値指標3												

4）定性的な効果発現状況

塩川駅東西自由通路が完成し、通学路として利用されるようになったことで、これまで幅員が狭く通行に危険な踏切を横断して登下校していた児童等の安全性が確保された。
また、線路を跨ぐ移動が容易になったことで、特に駅の西側地区で開催される各種イベントへのアクセスに関して、利便性が向上した。

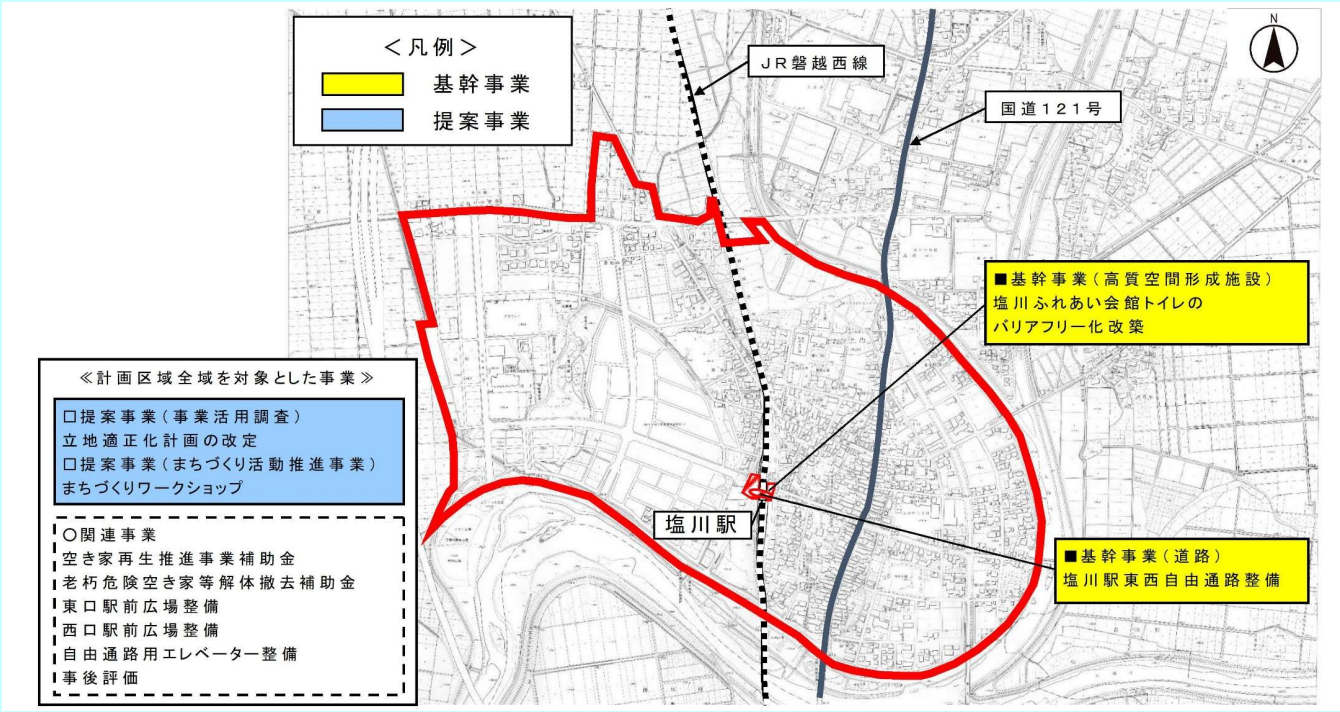
5）実施過程の評価

	実施内容	実施状況	今後の対応方針等
モニタリング	－	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	－
官民連携による取組	－	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	－
持続的なまちづくり体制の構築	－	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	地区住民が主体となり、行政や関係団体と連携して、塩川地区の将来ビジョンを策定することを目的とした「（仮称）塩川地区まちづくり協議会」の設立に向けた準備を進めている。

様式2－2　地区の概要

塩川駅周辺地区（福島県喜多方市）　都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標：舟運・宿場町として発展してきた「東側市街地」と区画整理により形成された比較的新しい「西側市街地」との多世代交流軸の形成により、楽しく歩いて暮らせる安全・便利なまちづくりを推進する 小目標①：楽しく歩いて暮らせる多世代交流軸の形成 小目標②：利便性が高く、多様な人々の交流・滞留が生まれる交通拠点の形成 小目標③：魅力的で安全性・利便性の高いまちづくり	東西自由通路の歩行者数（平日12h）	単位：　人/12h	0	R3	260	R7	255	R8
	塩川駅までのアクセス状況に関する満足度	単位：　%	26	H25	37	R7	67	R8
	未利用宅地面積	単位：　㎡	102,905	H29	90,200	R7	27,774	R8



まちの課題の変化	東西自由通路の整備により、東西間の連絡機能が向上し、安全安心な動線が確保された。 東西自由通路が新しい通学路として利用されることとなり、児童等の登下校の安全性が確保された。 西口駅前広場整備により、これまで東口に集中していた送迎車等の分散が図られ、通学時間帯の交通混雑が緩和された。
今後のまちづくりの方策（改善策を含む）	東西駅前広場整備により、公共交通や自家用車の駐車・滞留スペースを確保する。 東西駅前広場整備により、賑わいある駅前広場を整備し、地域活性化を図る。 東西駅前広場整備により、交通結節機能を高める。 駅東口の塩川ふれあい会館を改修し、駅利用者のみならず多様な人々の滞留・休憩スペースを整備する。